

# 1. 防犯ボランティアとは

## ① ボランティア活動は自発、自己責任が原則

規準 52b 地域から信頼され、責任を持って活動できる。

54a 防犯活動に対して積極的に取り組むことができる。

ねらい：□□ 52b ① 防犯活動に積極的に参加し、地域に信頼されている。

□□ 54a ① 地域の防犯や安全に関する事情に興味を持っている。

私たちの身のまわりでは、様々なボランティア活動が行われています。そして、その多くは、各個人が自発的に興味や関心の高い活動を行っています。本来、ボランティア活動には、他者に迷惑をかけない、しかも公共のモラルに反しない範囲で様々な内容が含まれています。防犯ボランティアは、その目的が「防犯」にあり、そのことに興味や関心が高い人が、個人またはグループで自発的に活動していることが基本にあります。

しかし、ボランティア活動であるからといって、その活動の結果に伴う責任が全くないわけではなく、活動によって生じた責任は、自分自身（場合によってはグループ）が負うということが原則です。このような基本的な考え方を理解したうえで、地域の活動を継続させる仕組みや方法を考える必要があります。（とはいえものの、自分自身が事故に遭ったり怪我をしたりすることに対する保険などの仕組みはあります。）

### 防犯ボランティアの例

#### 防犯ボランティアとは

##### ボランティア活動の理念

- ・他者に迷惑をかけない。
- ・公共のモラルを守る。

##### 正しい知識と方法の理解

- ・積極的な学習会の開催など。

##### 社会的に責任のある活動

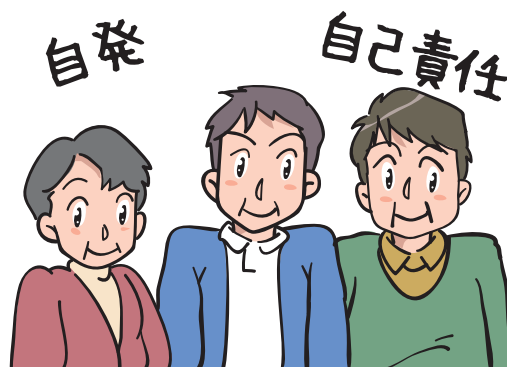
- ・地域への効果、影響を考えた活動を行う。

したがって、どんなに小さな単位のボランティア活動であっても、少なからず社会的な責任を持っていることとなります。「私たちは無償で活動しているのだから、やりたいようにやっています。責任はありません。」という考え方を持って活動するのであれば、それは誤りです。

防犯活動を進めるには、正しい知識と方法を理解したうえで活動を進め、地域の防犯に責任を持って取り組むことが必要です。その活動の方法が間違っていたり、子どもへの接し方が誤っていたことが原因で、地域や子どもに悪い影響を与えたりすることのないように、学習会などを積極的に開催することも必要です。

一方で、震災のような大きな災害等に見舞われた場合、現地の惨状を見て、「自分も何か役立ちたい」という衝動に駆られて、知識も方法も身につけていない状態で参加するボランティア活動もあります。

阪神淡路大震災の現場では、累計で200万人以上（阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター）がボランティア活動に参加しましたが、その多くは初めての体験だったといわれています。このように、必ずしも知識や方法を生かして始めるものではないボランティアも存在します。しかし、いずれにしても、自身がおかれている社会的課題に関心を持ち、内面的な動機が引き金になって、自発的に活動することが基本になっています。防犯活動の場合も、地域の防犯や安全に関する事柄に興味や関心を持ち、ボランティアの対象として自身で参加することが基本にあります。



#### ボランティアの4原則

##### 自主性・自発性

他から強制されたり、義務としてではなく、自分の意思で行う活動です。

##### 社会性・連帯制

誰もが生き生きと豊かに暮らしていけるように、お互いに支え合い学び合う活動です。

##### 無償性・無給性

金銭的な報酬を期待して行う活動ではありません。「出会い」「発見」「感動」「喜び」「充実感」が報酬と言えます。

##### 創造性・先駆性

今、何が必要とされているのかを考えながら、よりよい社会を市民の手で創る活動です。

(出典：広島県社会福祉協議会ホームページ)

## ② 各種の活動への積極的な参加

**規準 52b** 地域から信頼され、責任を持って活動できる。

**54a** 防犯活動に対して積極的に取り組むことができる。

**ねらい**：□□ 52b ② 地域の様々な行事に参加し、地域に信頼されている。

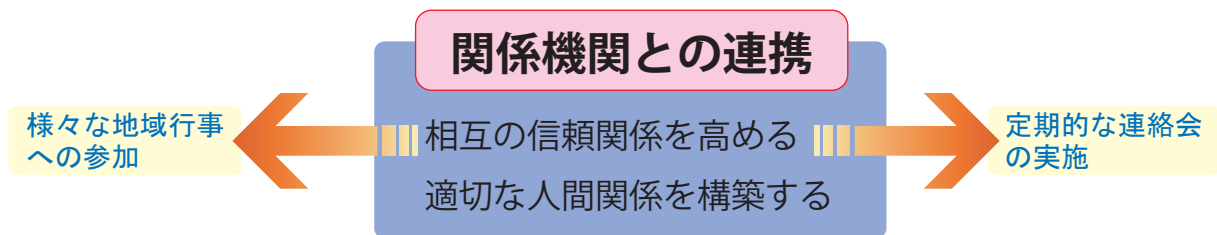
□□ 54a ② 人の話をよく聴き、共感できる能力がある。

警察庁生活安全局生活安全企画課の自主防犯ボランティア活動支援サイトには、平成23年2月末現在、国内で4300以上の団体が登録されています。これらの団体の多くは、町内でのあいさつ運動をはじめ、子どもへの声かけや、登下校の見守りなど、メンバーができる範囲のことを継続しているという特徴があります。多くのメンバーは、自発的に無理のない範囲での活動を行っています。

また、これらの団体の多くは、防犯活動だけでなく、地域の様々な活動に積極的に参加しています。その目的は、町内会やPTA等との連携にあります。本誌の中でも述べていますが、関係機関との連携には、定期的な連絡会はもちろんのこと、様々な行事に参加し、適切な人間関係を持ち、相互の信頼を高めていくことが必要です。

一方、日常的に講習会や学習会を開催することで、防犯活動に関する適切な知識や新しい情報を得ることも必要です。活動しているメンバーだけでなく、地域の方からの質問等にも正しく回答でき、指導できることも必要です。

### 関係機関との信頼構築の例



例えば、熊本市尾ノ上校区の子どもを犯罪から守る、女性だけのパトロール隊「オバパト隊」では、防犯協会や自治連合会と常に連携し、各種会議等には双方が参加する等、横の連携を大切に活動を行っています。

これらの機会を通して、互いの団体が抱える課題などを傾聴し、それらに対して連携して解決できるような方略を話し合っています。そして、校区を上げてのイベント等、地域安全活動において常に協同して活動を行い、相互の信頼関係を深めています。

また、地域安全活動をより円滑に進めるため、毎月1日に「オバパト隊勉強会」を開催し、管轄警察署から講師を招き、パトロールの要領、声かけ等の適切な対応要領等の講習や、犯罪情勢等の情報提供を受けて、地域から信頼される知識の高揚を図っています。

## ▼パトロールの風景



## ▼バザー等のイベントにも積極的に参加している



### ■オバパト隊の活動事例

熊本東地区防犯協会 HP オバパト隊インタビュー

<http://www1.bbqi.jp/higashichikubo/obapatonokatsudo.html>

警察庁自主防犯ボランティア活動支援サイト

[http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/katsudo\\_jirei/43kumamoto/k\\_kumamoto001.html](http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/katsudo_jirei/43kumamoto/k_kumamoto001.html)



資料

### ボランティア活動のポイント

#### ポイント1 無理をしない

無理をすると活動をやり遂げることが困難になり、最後まで責任のある活動ができなくなる可能性があります。そのためにも、自分の生活のリズムに合わせ、家族や職場など周囲の理解を得ながら、無理なく続けられる活動から始めましょう。

#### ポイント2 責任を持つ

対人対社会的な活動のため、自分の活動には責任を持ちましょう。無責任な活動は、本来の目的を逆に損ねてしまう可能性もあります。

#### ポイント3 振り返りをしましょう

自ら振り返ると、今まで気づけなかった自分にも気づけるかもしれません。次の活動のために、新たな自分発見のために、活動の振り返りもしましょう。

#### ポイント4 出会いを大切にしよう

活動をしていると多くの人と知り合う機会ができます。出会った人とふれあい、語り合うことで、また新たな活動に繋がるかもしれません。

#### ポイント5 学習しよう

常に情報の収集を行い、疑問や課題と感じたことを調べ、学習することは、次の活動のステップになるほか、また新たな活動に繋がるかもしれません。

#### ポイント6 マナーを守ろう

活動する先々でルールやマナー、プライバシー、活動にあたっての約束や時間を守りましょう。

(出典：広島県社会福祉協議会ホームページ)

### ③ 社会規範の遵守と責任ある行動

規準 54b 正しい倫理観で活動を推進できる。

ねらい：□□ 54b ① 知り得た秘密事項の守秘義務を遵守できる。

□□ 54b ② 日常の行動、態度、服装など品位の保持に努めることができる。

「ボランティア活動は自発、自己責任が原則（p.6）」で記述したように、社会的な責任と公共のモラルに反しない社会規範の遵守という基本原則が伴います。そのためには、一人一人の自主性や積極性に頼るだけでなく、組織として守るべき規約や要綱を作成するという方法があります。このことは、ボランティア活動の維持や運用が円滑に進める上で、利点があります。

まずは、活動目的や活動内容等について意思統一が図れることです。活動を行う上で、各自がそれぞれの考えや思いを規準に、ばらばらに行動すると、周囲からの信頼度を高めることはできません。組織の目的を明確にし、その目的を達成するために具体的な活動内容を吟味し、正しい倫理観に基づいた適切な活動をすることが大切です。さらに、その活動を継続することで、組織としての信頼度が向上し、活動への理解も得られるようになります。

例えば、日常の行動や態度に関する考え方と方法の周知や、防犯活動時の服装の統一などは、地域での活動時の信頼を得る方法として考えられます。

また、防犯活動上で知り得た個人情報などの秘密事項を守秘することの周知徹底は、地域での円滑な活動の基本にもなります。

#### 周囲からの信頼を高めるイメージの例

##### ボランティアの意識の統一

- ・団体の組織化
- ・活動目的の明確化
- ・活動時の服装の統一化 など。

##### 社会的規範・モラル

- ・防犯活動で知り得た秘密事項の守秘 など。

周囲からの信頼度の向上

これらのことから、組織の責任者や、活動内容による責任者などを設けることにより、それぞれの役目を明確にすることも考えられます。このことにより、それぞれの責任者と参加者の役割分担が明確になり、組織化が円滑に進みます。しかし、地域によっては、すでに存在する組織の中に位置づけられて活動している場合もあり、それぞれのケースに応じて進めることも必要です。いずれにしても、組織として守るべき規約や要綱を定めることで、ボランティア活動が、団体を結成しやすく、役員や参加者の役割が明確になるという利点があります。

### ●組織化のメリット

組織化により、活動助成金や活動に必要な資機材の支援を受けやすくなるという利点があります。同時に、資金の管理や運用を適切に進めることができるようになります。団体が規約や要綱などに基づいた組織化を図ることにより、活動に対する信用性や確実性などが向上し、それらを裏付けにした資金確保などが得やすくなります。最近では、特定非営利活動法人への申請と認定により、資金面の運用と活動を円滑化しているケースも増えてきています。

これらは、ボランティア活動の必須事項ではありませんが、簡単な規約や要綱の策定を踏まえた組織化により、ボランティア活動の適正化を向上させることも可能です。なお、規約や要綱を策定する場合には、団体の名称、目的、活動内容、構成人員、事務局、入会や退会の手続き、役員（責任者）、会議に関すること、会計などをその内容として定めることが考えられます。

#### 【組織化の具体例（京都市立藤城小学校）】

京都市立藤城小学校では、学校と地域と保護者で構成された組織である学校運営協議会を中心として、子どもの安全と健全育成に取り組んでいます。学校運営協議会は、役割ごとに、ふれあい部会、情報教育部会、環境整備部会、安全環境部会の4つの部会を設けています。

それぞれの部会は、自治会や地域の組織と連携を図り、活動を行っています。例えば、安全環境部会の場合、安全委員会、少年補導委員会、自主防災会等、地域の防犯や防災に関わる組織と連携して、登下校時の見守り活動やパトロールを行っています。

学校運営委員会を設置したことで、地域の委員会や自治会が独自に行ってきた活動を調整し、各団体の連携が円滑に行えるようになりました。また、さまざまな組織の人が意見交換を行う場が生まれたことにより、結果としてお互いの信頼関係の構築にも繋がっています。



#### ビデオ教材（ビデオ→防犯ボランティアとは）

ビデオを見て、ボランティアについての基本的な考え方や、防犯ボランティア活動を行う上で意識すべき事項についてまとめてみましょう。

---

---

---